

# あの日の記憶

—仙台空港にて—

酒井恵三

いつこの大地に

新たな芽吹きが訪れるのだろうか。

若しあの日を思い

心の中で腕を伸ばしても

ありありと過ぎた日々を

鮮明に思い出す事など

出来はしまい

それはあらゆる物を

飲み込んで行ったのだ

黒々とした巨大な波は

大地を舐め回したのだ

粉雪舞う中に陸おかに上がった

それは

巨人の大きな掌のように

人々をつかんで

連れ去って行ったからだ

私はこの大地を

踏みしめる時

思わず身震いする

大地は今なお

塩気をたっぷりと含み

そして

血生臭くもあるからだ